

1/19

新春恒例行事 令和7年三春だるま市

## 今年の希望の一字は「快」

江戸時代から続く、新春の恒例行事「三春だるま市」において、玄侑宗久氏が揮毫（きこう）された七言の句第三句、昨年の「欣（よろこび）」に続く二文字目となる希望の一字「快（こころよい）」の特だるまが披露されました。

今年は天気もよく、例年以上にたくさんの皆さんが、だるまなどの「福」を買い求めています。大町太鼓保存会の皆さんによる「三春太鼓」と高柴デコ屋敷の皆さんによる「ひょっとこ祝い踊り」には、たくさんの皆さんが輪になり、ひょっとこが配るミカンや餅などに手を伸ばしていました。



オープニングセレモニーで一文字だるまが披露されました



希望の一字を揮毫いただいた玄侑宗久氏

### 今年の一文字「快（こころよい）」

元々この文字は患部を抉（えぐ）り取ったあとのすっきりと気持ちよい状態のこと。

政治の世界は裏金問題にメスが入ったが、戦争や悪質な強盗の多発にもいよいよケリをつける英断が求められる。今年こそ患部が除かれて「快適」な年になればいい。患部がなくなれば気持ちよくなって勢いが増すので「快」は「速い」という意味にもなる。何より「快」は、生きる意欲を昂進させる最も大切な感情である。

玄侑 宗久

